

＜平成 27 年度＞

社会教育部の取り組み実績

社会教育課
放課後子ども課
文化財課
スポーツ振興課
中央図書館

I 重点施策・事業

◆社会教育の推進

人が地域で生活する上で必要となる知識や技術を提供するために、「社会教育基礎講座」や家庭教育支援事業として「思春期セミナー」、「子育て応援・親学習講座」、父親の家庭教育への参加を促すための講座等を開催します。



子育て応援・親学習講座

実績

- ・思春期セミナー（9月）、社会教育基礎講座（8・3月）、親学習講座（9・11月）、父親の家庭教育参加促進事業（8・3月）、教育講演会（1月/PTAと共催）、親を考えるセミナー（3月）を実施し、市民が家庭や地域で生活する上で必要な基礎的な知識・技術の提供に努めた。

◆留守家庭児童会室事業

仕事と子育ての両立支援に資するため、平成27年4月から三季休業時（春・夏・冬休み）等の開室時間を拡大するとともに、平成29年度から小学5年生まで、平成30年度から小学6年生までと段階的に入室対象学年を拡大するため、必要な施設整備を進め、職員の専門性の向上を図ります。あわせて、閉園した殿山第二幼稚園及び津田幼稚園を、平成28年度から留守家庭児童会室として有効活用するための取り組みを進めます。

実績

- ・4月から三季休業時（春・夏・冬休み）等の開室時間を8時30分から8時に拡大した。
- ・平成29年度から小学校第5学年まで、平成30年度から小学校第6学年までと段階的に入室対象学年を拡大するための施設整備として、枚方留守家庭児童会室の増築、津田南・殿山第一留守家庭児童会室の建替え、男女別トイレ増築のための実施設計を行った。また、職員の専門性向上のため、職員研修を実施した。
- ・閉園する殿山第二・津田幼稚園を留守家庭児童会室として活用するため、改修工事を行い、1月より供用を開始した。

◆歴史文化遺産の保存・活用

①特別史跡百済寺跡再整備事業

再整備工事に着手し、平成30年度の完成を目指します。平成27年度は、敷地造成、排水設備、下水道設備工事等を行います。また、築地大垣復元設計を行います。



特別史跡百済寺跡

実績

- ・10月に再整備工事に着手し、排水施設工事、寺域の北から北西にかけて遺構を傷め整備の支障となる樹木の伐採及び造成工事を実施した。また、築地大垣復元の基本設計作業を進めた。

②楠葉台場跡保存整備事業

楠葉中之芝土地区画整理事業による造成工事で、史跡の暫定整備が完了することにより、供用を開始します。また、史跡指定地の公有化を進めます。

実績

- ・史跡保存が適切に図られるよう楠葉中之芝土地区画整理組合と協議を行い、同組合が暫定整備工事を施工した。また、史跡指定地の公有化を図った。公有化協議に時間を要したため、全体の供用開始は平成 28 年度となった。

◆スポーツ施策の推進

①トップアスリートとのふれあい事業

トップアスリートとふれあう機会をつくることで子どもたちの夢を育み、青少年のスポーツへの関心を高め、夢と魅力あふれるまちづくりに寄与します。平成 27 年度は陸上競技と野球のトップアスリートを招聘し、教室を開催します。

実績

- ・アテネオリンピックハンマー投代表の室伏由佳さんのほか日本のトップ講師を招いてのジュニア陸上競技夢クリニック（12 月）、元阪神タイガースの桧山進次郎さんのほかタイガース OB を招いてのジュニア軟式野球教室（3 月）を開催した。

②市民スポーツカーニバル開催事業

市民の体力向上と健康増進を図るため、体育の日にスポーツ事業を実施します。平成 27 年度は市民スポーツカーニバルの一環で「見るスポーツ、支えるスポーツ」として全国ソフトバレー・シルバーフェスティバルを開催します。

実績

- ・体力測定コーナーや各種体験コーナーを設け、延べ 1,726 人の参加があった。また、総合体育館で開催した全国ソフトバレー・シルバーフェスティバルでは全国各地から 54 チームの監督・選手並びに大会役員等約 500 名の参加があった。

◆スポーツ施設の整備

春日テニスコート（7 面）の平成 27 年度中の供用開始に向けて準備を進めます。

平成 27 年 4 月より、ひらかた東部スタジアムの供用を開始し、市民のスポーツ活動を支援します。



ひらかた東部スタジアム

実績

- ・上下水道局春日受水場の受水池上面のテニスコートを社会体育施設と位置づけ、「春日テニスコート」をリニューアルし、10 月より供用開始した。
- ・市営で初めて硬式野球ができる「ひらかた東部スタジアム」が 4 月より供用開始した。
- ・旧国家公務員枚方体育センター跡地のテニスコートを改修した「藤阪東町中央公園テニスコート」が 4 月より供用開始した。

◆地域におけるスポーツ活動の推進

地域資源を活かし、身近で手軽にスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

実績

- ・市内にスポーツ施設を有する 6 企業の協力のもとに、提供可能なスポーツ施設を広く市民に開放する、枚方市民間スポーツ施設開放事業を実施し、グラウンド、テニスコート、体育館 11 施設で延べ 2,975 件の利用があった。

◆生涯学習施設と図書館の複合施設への指定管理者制度導入

サービス向上と効率性の観点から、生涯学習市民センターと図書館の複合施設に指定管理者制度を導入します。平成 27 年度は、平成 28 年 4 月からの 2 施設への先行導入に向けて、所定の手続きを進めます。

実績

- ・平成 28 年度の蹉跎、牧野の生涯学習市民センターとの複合施設への指定管理者制度の導入に向け、手続きを進め、平成 28 年 4 月からの 2 複合施設（蹉跎・牧野）の指定管理者を決定し、事業開始に向け、具体的な作業を行った。

◆市民の生涯学習の支援

①第3次グランドビジョンの策定

平成 27 年度で計画期間が終了する市立図書館第 2 次グランドビジョンに代わる、これからの市立図書館が目指すべき方向性を示す市立図書館第 3 次グランドビジョンを策定します。

実績

- ・社会教育委員会議に諮り、答申を受けた後、パブリックコメントを実施し、市民の意見を聴取した上で、市民にとって「役に立つ図書館」とするため、次の 4 つの方針を定め、策定した。
- ① 基礎的な図書館サービスの充実
 - ② 家庭生活及び職業上の課題や地域課題の解決のための各種支援機能の強化
 - ③ 教育的役割を重視した取り組みの推進
 - ④ 魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築

②子ども読書活動推進事業

乳幼児から小学生を対象としたおはなし会などのほか、ブックリストの作成・配布や、ビブリオバトルなどの開催により、中高生を中心とするヤングアダルト層までの子どもたちが、読書に親しみ、楽しめる環境づくりを推進します。

実績

- ・定例行事のほか、ブックリストを作成配布した。「中学生のビブリオバトル」、「子ども司書連続講座」「IFLA からの贈り物、絵本で知る世界の国々展」などを初めて開催した。また、読み聞かせボランティア講座などを開催し、ボランティアの育成支援に努めた。

③学校図書館支援事業

小中学校に対して、団体貸出及び配本事業の充実、学校訪問おはなし会の実施等、学校図書館への学校司書の派遣を行い、学校図書館支援を強化します。

また、図書館コンピュータシステムの更新に合わせて、市立図書館と学校図書館のオンライン化をめざします。



学校司書によるオリエンテーション

実績

- ・実践研究校区の 3 校（桜丘中、長尾中、第四中）へ派遣している学校司書に対し、学校図書館の運営支援を行うとともに、当該中学校区内の小学校の蔵書分類を統一するなど蔵書管理についての助言や、より分りやすいレイアウトへの変更など図書館環境の整備について支援を行った。
- ・学校への団体貸出図書配送事業については、平成 26 年度の試行を踏まえて配本校を 14 校から 20 校へ拡大し、4 月から本格実施を開始し、読書活動の支援を行った。
- ・平成 28 年 10 月より、市内小中学校 64 校の学校図書館の蔵書データベース化に向けた取り組み方針を策定した。

◆図書館資料の計画的・系統的な収集

図書・雑誌・オーディオビジュアル資料・電子情報等の幅広い情報を計画的・系統的に収集し、提供します。

また、「枚方地域コレクション」の充実と、ホームページを活用した魅力発信により、利用の促進を図ります。さらに、枚方市が作成した歴史関連資料などを電子化して提供することを検討します。

実績

- ・小説、郷土資料、洋書、大活字本、絵本等、入門書から専門的な資料まで、幅広い分野にわたり新しく収集し、提供した。内訳は、購入数 36,635 点（一般 26,431、児童 10,204）、寄贈 15,913（一般 13,572、児童 2,341）
- ・枚方地域コレクションは継続して収集した（1,366 点）。枚方の魅力発信事業として、歴史講座《地名からみた枚方の歴史》を開催した（47 名参加）。
- ・ホームページを活用しての魅力発信や枚方市が作成した歴史関連資料の電子化については、平成 28 年度実施に向けて情報収集に取り組んだ。

II 行政改革・業務改善

<行政改革実施プラン（前期）の改革課題>

改革課題	取り組み内容・目標
19.市有財産等の有効活用 ③.閉園幼稚園施設の活用	施設整備等の準備を進め、留守家庭児童会室（殿山第二・津田）は、平成 28 年 4 月の開室をめざす。
実績	・閉園する殿山第二・津田幼稚園を留守家庭児童会室として活用するため、改修工事を行い、1 月より供用を開始した。

改革課題	取り組み内容・目標
19.市有財産等の有効活用 ④.野外活動センター活用計画の策定	野外活動センターの本来の設置目的である青少年の健全育成の場として、学校キャンプの計画から実施までを全面的にサポートする「学校キャンプ支援事業」を本格実施する。その後において、施設利用の検証を行い、今後の方向性を示す。

実績

- ・野外活動センターの本来の設置目的である青少年の健全育成を目的に学校キャンプ支援事業を実施し、小中学校 26 校が野外活動センターを利用した。また、学校利用促進のための、PR 活動も行った。

改革課題	取り組み内容・目標
27.市内スポーツ施設の管理運営体制の一元化	スポーツ施設の管理運営体制一元化に向け諸課題の整理を行う。

実績

- ・市長部局が管理するスポーツ施設との相互課題や、指定管理の評価項目の確認、所見についての意見交換を行い情報共有を進めた。

改革課題	取り組み内容・目標
28.生涯学習施設と図書館の効率的な管理運営	平成 28 年 4 月からの 2 複合施設（蹉跎・牧野）への指定管理者制度の先行導入に向けて、所定の手続きを進める。

実績

- ・平成 28 年度の蹉跎、牧野の生涯学習市民センターとの複合施設への指定管理者制度の導入に向け、手続きを進めた。
- ・平成 28 年 4 月からの 2 複合施設の指定管理者を決定し、事業開始に向けての具体的な作業を行った。その導入状況を検証して、平成 30 年度の 6 施設（蹉跎・牧野・楠葉・菅原・御殿山・津田）への指定管理者制度導入につなげる方針を定めた。

改革課題	取り組み内容・目標
29.外郭団体等における中期的な「経営プラン」の策定	(公財)枚方市文化財研究調査会に対しては、「経営プラン」を策定するようはたらきかけるとともに、行政との役割分担など、課題解決に向けて検討する。 (公財)枚方市体育協会が策定した「経営プラン」(H24~H28)の検証を踏まえ、次期策定に向けて体育協会への働きかけを行う。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・(公財)枚方市文化財研究調査会と行政との役割分担などの課題解決に向け検討中のため「経営プラン」策定には至らなかった。本市文化財行政の再編の中で団体のあり方を検討したうえで、「経営プラン」策定をはたらきかける。

改革課題	取り組み内容・目標
44.施設の使用方法の見直し ③市立学校園の施設開放事業	市立学校園施設開放事業と市立小中学校体育施設開放事業との整理・調整及び電気使用料等の実費相当額の負担について具体化に向けた検討を進める。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度に取りまとめた「使用目的や使用対象施設による区分の整理・明確化」、「実費相当額の徴収方策等」の方向性について、協議・検討を行った。

改革課題	取り組み内容・目標
47.留守家庭児童会室保育料の収入対策	債権回収課との連携、口座振替の勧奨、コンビニ収納の導入などにより徴収率の向上を図る
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・口座振替の利用促進等に取り組んだ結果、留守家庭児童会室保育料についてはコンビニ収納を導入した平成25年度から引き続き95%を超える徴収率を継続できた。 ・債権回収課との連携については、引き続き検討していく。

<改革・改善サイクルに係る対応>

事務事業	取り組み内容・目標
各種スポーツ大会等開催事業	市民の体力向上、健康増進とスポーツ活動の活性化を図るため、総合体育大会を実施する。ラグビーカーニバル及びレクリエーション事業については、より多くの市民が気軽にスポーツに親しむ機会となるよう、事業内容の充実を図る。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・総合体育大会等の各種競技大会を開催し、延べ23,199人の参加があった。また、レクリエーション事業については、延べ157人、ラグビーカーニバルには462人の参加があった。

事務事業	取り組み内容・目標
民間スポーツ施設等開放補助事業	民間スポーツ施設等開放補助事業については事業のあり方を見直し、平成27年度から市の委託事業として民間スポーツ施設開放を実施する。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・民間スポーツ施設等開放補助事業については事業のあり方を見直し、市の委託事業として民間スポーツ施設開放事業を開始した。

<業務改善のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
市民対応における市民満足度の向上	市民等からの社会教育分野における専門的な問合せに対し、各分野において所属職員が同じレベルで対応できるよう引き続き知識や情報の共有化を図る。
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な問い合わせ内容とその回答について情報共有を行うことで、所属職員が同じレベルで対応できるようにし、また全体のレベルアップを図った。

テーマ	取り組み内容・目標
省エネ意識の向上	普段から自ら省エネを意識し、事業やイベントにおいても省エネ行動を励行するとともに、所属職員が省エネ行動を励行するよう注意を促す。
<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の業務で省エネを意識するだけでなく、イベントにおいても、無駄な照明の消灯、資料作成の際の、適正数を見極め、無駄な印刷をしない。 ・ 枚数が多いときは印刷機を利用する等、省エネ行動を励行した。 	

Ⅲ 予算編成・執行

- ◆文化財保存事業に国庫補助金の活用を図ります。(5件 5911万3千円)

実績

- ・ 文化財保存事業に国庫補助金の活用を図った。(5件 2,429万4千円)
なお、補助金の減額の要因は特別史跡百済寺跡再整備事業の工期延期による。

Ⅳ 組織運営・人材育成

- ◆文化財行政やスポーツ行政、図書館行政など様々な分野を担当する社会教育部において、各分野の職員が日常業務を通じて、担当する分野の専門的な知識や技術の習得を行い、資質の向上を図ります。また、質の高い市民サービスを提供するため、職員研修を実施するなど人材育成に努めます。

実績

- ・ 留守家庭児童会室職員の専門性向上のため、年10回の職員研修を実施した。
- ・ 10月に重要文化財建造物管理実務研修会、11月に文化財等防災ネットワーク研修に参加し、12月に資料館関係職員に報告会を行った。

- ◆職員一人ひとりが普段から市民目線に立った事務改善を意識し、時間外勤務の縮減など、より一層効果的・効率的な事務執行に務めます。

実績

- ・ 「ノー残業デー実施シート」を活用したノー残業デーの推進を図り、事務の適正な執行管理に努めた。

V 広報・情報発信

- ◆ホームページの充実

わかりやすい表現、事業決定後の迅速な掲載を心がけるなど、社会教育部関係の事業を効果的にPRします。また、開催結果や参加者の感想などをタイムリーに伝え、ホームページの魅力アップを図ります。

実績

- ・ ホームページの掲載は迅速に掲載を図り、また、項目の分類を統一するなど、情報を探しやすくするなどの工夫を行った。

- ◆効果的な事業PR

広報やホームページだけでなく、対象を意識した適切な媒体の活用や他の市主催事業など様々な場面を通じて、さらなる事業宣伝活動を行います。また、マスコミへの情報提供を積極的に行い、「教育文化都市ひらかた」を広く発信していきます。

実績

- ・ 留守家庭児童会室の職員確保に向けて、民間求人紙も活用した。
- ・ 3月2日に延べ入館者数が30万人を達成した旧田中家鋳物民俗資料館での記念品の贈呈の様子をマスコミが報道し、資料館の魅力を広く発信した。